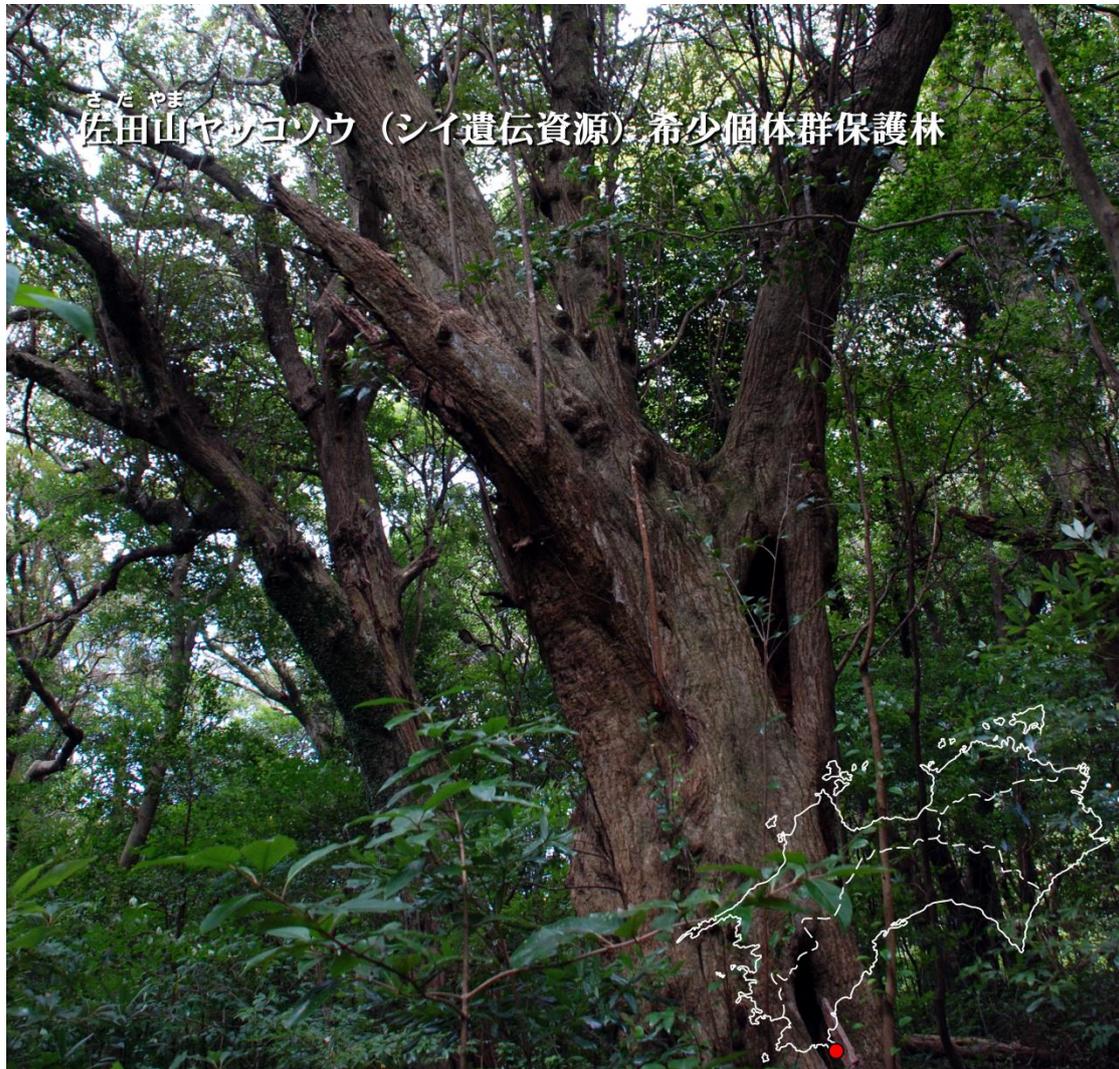


佐田山ヤッコソウ(シイ遺伝資源)希少個体群保護林



この保護林は樹齢140年を越えるシイ(スダジイ、ツブラジイ)やアカガシの巨木が生え、貴重な生態系を作っています。

シイは照葉樹を代表し、四国では主に太平洋を望む斜面に分布しており、瀬戸内海には稀にしか見られません。

10月下旬から12月上旬ごろ、林床にはシイの根に寄生する不思議な植物ヤッコソウが顔を見せます。

ヤッコソウは高知県で牧野富太郎により発見され、希少なため高知県のレッドデータブックで絶滅危惧IB類(EN)に記載されています。



▲顔を出したヤッコソウ（踏み荒らし防止のためロープ柵内は立ち入り禁止です）



▲シイの根から直接出ている様子

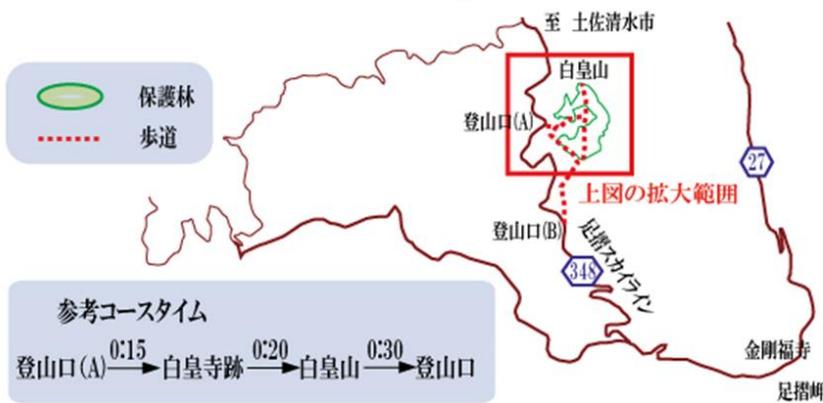
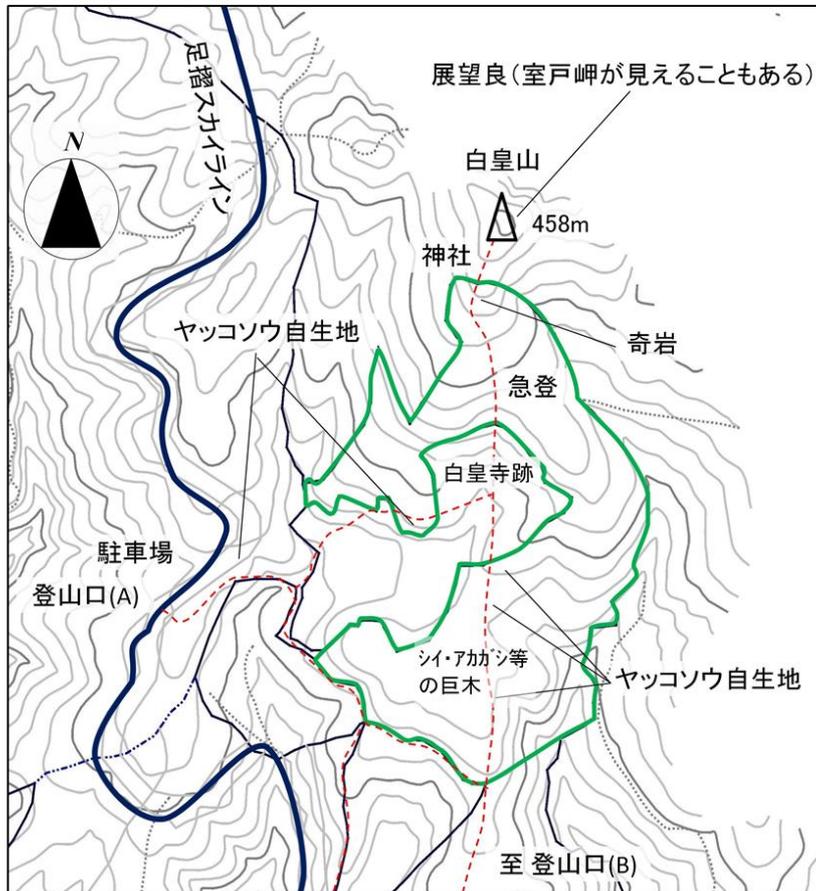


▲ヤッコソウの断面

中には無数の小さな種が入っており、アリが種を運びます。

【保護林マップ】

佐田山ヤッコソウ
(シイ遺伝資源) 希少個体群保護林マップ



登山口(A)は保護林の看板や神社の鳥居が目印です。
登山口(B)からのコースもありますが、歩道の一部が不明瞭なため、一般的ではありません。
歩道沿いの民有林では炭焼窯跡を多数見ることができ、炭焼きが盛んに行われていたことが伺えます。

また、白皇山からは天候が良ければ、土佐湾や室戸岬まで見渡すことができます。

イラストマップ



佐足田摺山半島保護林

かつて、縄文時代より唐人跡陽も含めた足摺半島は、人々が豊かに暮らしていたとされる。照葉樹林の木陰から当時の世界を想像するのはおもしろい。また、戦国時代、長曾我部氏に連れられた一徳公の財宝が隠されている可能性も指摘する人々の噂もある。

白山白皇神社の祭
年3回、旧暦の1月15日、5月15日、9月15日に行なわれている。祭日も変更はらう災い起こるとされる(災が起る日)。

旧の15日は月が丸く白く光るため無むくをくわが源がとるいといわれ、白月の頃と呼ばれている。

佐田山保護林
佐田山保護林は、シイ天然林。学術参考と遺伝子保存の保護林に指定されている。面積は10.98ha。シイ30%、カシ25%、その他40%。
無旅行目標、千宮防衛、保健の3種類の保安林でもある。
足摺半島海国立公園。
四万森林管理者が管理。

道案内
入口④～白皇山頂 約40分
"～石鎚神社入口⑤ 50分
*足摺スカイライン入口より約8km

白皇山頂には石鎚神社の祈詞。祈詞の持つ若は修験道の言霊の跡。祈詞の裏に回ると大きな岩があり、断崖の上から見事な眺望が開けている。

山頂はまさにハイキングのスポット。人が積んだような巨石が置かれている。巨岩がいたるところに。巨石文明!! 白皇山のロマンだ!!

大名や(伊弉諾)の即のせいといわれ、タココは美味。タココを煮ると、タココは美味。タココは美味。

照葉樹林の天然林
足摺半島のどまん中。昼なら暗いので常緑の森。ここは年向を通じて常緑に光る葉をもつシイ、カシ、タブ、ツバキ、アザミなどの照葉樹林。つい最近まで西日本の工半はこのような常緑の森にまわられていた。総立の昔より人々は、この森のほとりや神々の世界を感じていたのかもしれない。

ヤッコソウは昔は発見された。シイの根に寄生しているので、栽培は難しい。世に広がった。世界最大の花「ラフレシア」の仲間でもある。保護の範囲は正に厳禁。

ヤッコソウ自生地
ヤッコソウ。大名行列の役に似ている。しから博物学博士が命名。スズイヤッコソウの根に寄生して大群落をつくる。花は晩秋、11月頃。白色。1cmほど十字に對生している。花にたくとん密が、あつ、メジロなど、小鳥が集まってくる。甘い。

足摺半島
中浜、スカイライン、望洋、津呂、唐人跡陽、白皇山、石鎚神社、松尾のつた、白皇、金山福寺、植物園、白山神社、白山神社、白山洞門、白山洞門

水平線が目の高さの松を描いている。山の沖のぼ潮の流れも見えることが出来る。

広く青い石文な景色だ!!



【上空から見た保護林】



足摺岬にある白皇山の山頂付近から足摺スカイラインの近くまでが保護林です。

(2012年3月27日撮影)

【保護林内の植物】

当保護林はシイ（スタジイ、ツブラジイ）やアカガシが優先する森です。

そのほかに、イスノキやカゴノキ、バリバリノキ、ホソバタブ、サンゴジュ等が生育し、林床にはヤッコソウやアリドウシ、ツワブキ、センリョウ、オモト、キジョラン等60種類以上が確認されています。

シイの1つであるスタジイは暖地の山地に生え、高さ30mほどの高木になる常緑広葉樹です。

樹冠は円形で、5月～6月に淡黄色の花を一斉に咲かせる様子は巨大なカリフラワーが生えているように見えます。

よく似たツブラジイ（コジイ）は樹皮が滑らかで葉はスタジイよりやや小さいです。



▲スダジイの幹

スダジイはツブラジイに比べて長寿と言われています。



▲ツブラジイの実（どんぐり）（三原村にて撮影）

どんぐりは、スダジイに比べて、やや小さくて球形に近いです。そのまま食べることができます。樹皮は赤褐色で鱗状にはがれる。



▲アカガシの優先する箇所（保護林上部）
アカガシの特徴は滑床山保護林をご覧ください。



▲保護林内にはキジョランという蔓性植物があり、渡りをする蝶として有名なアサギマダラが産卵する植物の1つとして知られています。



▲キジョランの葉を食べるアサギマダラの幼虫

円形に食べ跡を残すのが特徴です。有毒のキジョランを食べて体に毒を蓄積し、鳥などから捕食されるのを防ぐと言われています。

また、成虫になると、ヤマヒヨドリやフジバカマの花からピロリジンアルカロイドという毒を取り込み、その臭いで鳥やクモなどから身を守っています。



▲ヒメアリドウシ (2012年12月撮影)

林床に多く生え、トゲが鋭く触ると痛いです。葉がトゲより短いとヒメアリドウシ、長い場合はアリドウシです。



▲ツワブキ

葉がフキに似ており、ヤッコソウが出る頃に黄色の花を咲かせます。